

森林・林業政策の現状と課題について

平成29年5月10日

林野庁

目 次

我が国の森林の現況	P. 1
森林の管理・経営の現況	P. 2
施業集約化等のこれまでの取組	P. 3
森林環境税（仮称）の検討状況について	P. 4
新たな森林の管理・経営スキームの検討方向	P. 5
木材需要の拡大に向けた取組	P. 6

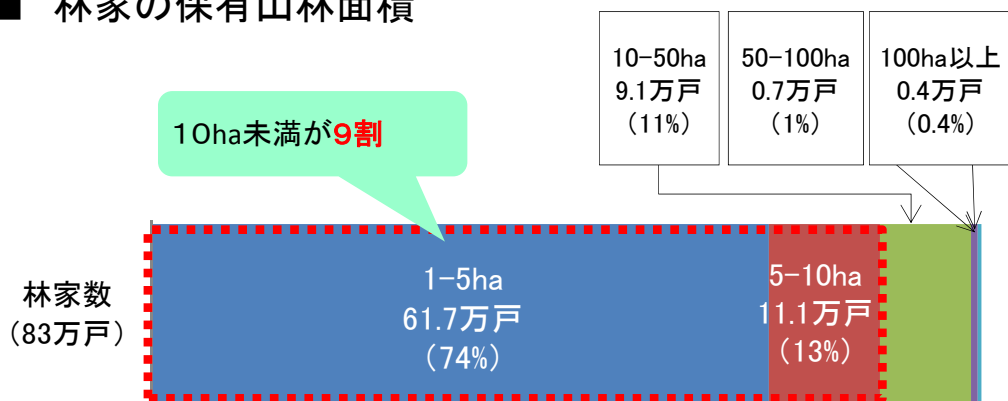
森林の管理・経営の現況

○ しかしながら、我が国の森林については、

- ① 森林所有者は小規模・零細なものが大宗を占めている中で、
- ② 急峻で複雑な地形ゆえに、林道・森林作業道等の路網密度が低く、伐採搬出コストが高い等、厳しい状況に置かれており、森林経営に関心を失っている森林所有者も多い。

○ 現場では、所有者が不明であること等から、管理ができない森林も多く見られる実態にある。

■ 林家の保有山林面積

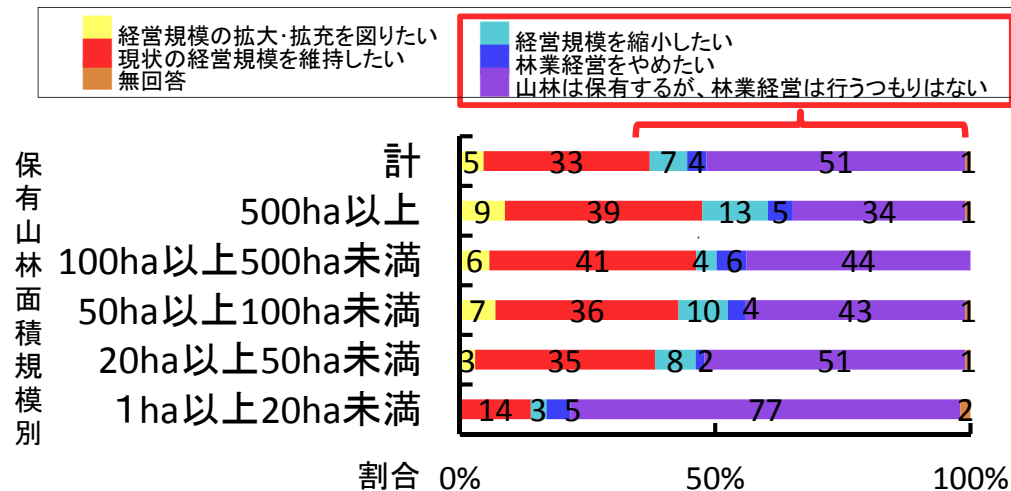


資料：2015農林業センサスより作成

■ 路網整備の状況

	日本	オーストリア
路網の配置状況		
特徴	傾斜が比較的急で、複雑な地形であるため路網密度も低い	傾斜が比較的急だが、等高線に沿った高密度な路網が整備されている
森林面積	2,508万ha	389万ha
木材生産量	2,492万m ³	1,739万m ³
伐採搬出コスト	9,000円/m ³	2,400~5,500円/m ³
林内路網密度	21m/ha	89m/ha

■ 今後の林業経営についての意向



注：計の不一致は四捨五入による。

資料：農林水産省「林業経営に関する意向調査」(平成23(2011)年3月)

写真：Google Earth(路網)、富士通総研研究レポート(林業機械)より引用。

注：伐採搬出コストについては、(日本)スギ間伐(林野庁業務資料)、(オーストリア)タワーヤード等の作業システムによる間伐(平成21年度森林・林業白書)

施業集約化等のこれまでの取組

- こうした中で、林業施策により、これまで①小規模・零細な森林所有者の森林の施業を取りまとめ、一括して実施する施業の集約化、②高性能林業機械の導入促進による生産性向上、③路網の整備による木材の搬出コストの削減等を図ってきたところ。
- しかし、国内の森林資源が本格的な利用期を迎える中で、今後、この資源を計画的に利用し、資源の循環を確保していくためには、新たな仕組みを検討する必要があるが生じている。

■ 森林経営計画制度の概要

① 森林経営計画

・地形界で括られた面的なまとまりのある森林を単位とした森林経営計画の作成により、持続的な森林経営を推進

意欲ある者による施業集約化

搬出間伐の推進

効率的な路網整備

高効率な作業システム

効率的かつ継続的な施業による安定的な木材供給の実現

目的

一体的なまとまりを持った森林における計画的・効率的な森林の施業等を通じた、森林の有する多面的機能の十全な発揮

作成者

森林所有者又は森林所有者から森林の経営の委託を受けた者

作成要件

(林班計画) 林班等の面積の2分の1以上の森林
(区域計画) 市町村が定める一定の区域内で30ha以上の森林
(属人計画) 自ら所有している100ha以上の森林

計画内容

森林経営の長期方針、森林の現況と伐採・造林計画、森林の保護、路網の整備等

認定基準

主伐(収穫の保続、標準伐期齢、伐採規模等)、間伐(間伐率、間伐間隔等)、適正な植栽その他市町村森林整備計画との適合

計画期間

5年

認定者

市町村長等

メリット

所得税・相続税の特例措置、日本政策金融公庫等における融資条件の優遇、各種補助金等の支援対象

■ 高性能林業機械を使用した作業システムの例

車両系作業システム



伐倒：
チェーンソー



木寄せ：
ウインチ付きグ
ラップル
木材を掴み荷役を行
う



造材：
プロセッサ
枝払、玉切、
木材の集積を行
う



集材：
フォワーダ
玉切した木材を
荷台に積んで運ぶ



運材：トラック

森林作業道

林業専用道

林道

架線系作業システム



伐倒：
チェーンソー



集材：タワーヤーダ

簡便に架線集材するため
人工支柱を装備した自走
可能な集材機



造材：
プロセッサ

枝払、玉切、
木材の集積を行
う



運材：トラック

林業専用道

林道